令和７年度北上市市政座談会

～きたかみまちづくりトーク「ＷＡになって話そう」～in 黒沢尻東

報告書

日　時　　令和７年11月11日（火）　午後６時から７時まで
場　所　　黒沢尻東地区交流センター
参加者　　地域参加者：37名
　　市出席者　：14名　　※他事務局等７名
グループトークテーマ
　Ａ：地震・豪雨など自然災害から身を守るために、家庭や地域でできることは何ですか？
　Ｂ：高齢者や子どもが安心して暮らせる街ってどんな街だと思いますか？
　Ｃ：転入者や外国人等新しく黒東地区に来た人たちと、どのようにコミュニケーションを図っていけば良いと思いますか？
　Ｄ：黒東地区自治協議会の活動、あなたならどんなことをやりたいですか？
　Ｅ：黒東地区の郷土芸能や火防祭など、継承していくためにはどうしていけば良いと思いますか？

Ａグループ
・自主防災の体制について、高齢者や要支援者の避難は不安や課題がある、普段からの地域での防災活動が十分ではない、更新されたハザードマップを広げての話し合いが必要、地域のつながりや助け合いが難しくなっている、等の課題が共有された。外国人が増えていることによるコミュニケーションの難しさも挙げられ、防災に限らず平時の情報伝達も難しいという話があった。
・側溝や関連施設、内水対策について、定期的に見回りをしてほしい、取り組みの情報や計画等が分からないと住民が不安に思う、等の意見があり、途中経過でも共有してほしいという要望があった。
・市出席者からは内水対策についての説明や、市からの避難指示について、最初が高齢者等避難になることや市民に届く媒体などの説明があった。

Ｂ-1グループ
・高齢者の移動手段について、車が無いと不便な地域があるという意見があった。市出席者からは、駅東口には停留するバスが少ないことや、まちなかであっても移動が難しい高齢者がいるという視点を持たなければならないという話があった。また、米寿のお祝いについても、次年度からの方針について市出席者から説明があった。
・地域でのコミュニケーションについて、地域の大人が子どもたちに挨拶をすることが防犯上難しくなっている、世代間交流の場をつくることができれば良い、子どもを通じて親も交流できるような地域行事があると良い、等の意見が出された。
・子どもたちや高齢者が歩く歩行環境について、信号機が無くて危険な場所がある、あまりよくないと感じる部分があるので、安心して歩けるような環境にしてほしいという意見があった。

B-2グループ

・安心して暮らせる街について、高齢者が集まって交流できる場所があること、顔の見える関係がつくられていること、挨拶などの声掛けができ、コミュニケーションがしっかりとれること、等の意見が出された。
・子どもたちの環境として、放置された危険な空き家がある、駅前の治安や交通状況が良くないので、子どもたちの登校が心配である、学校のトイレに問題があると感じている等の意見があった。また、親とのトラブルの可能性があるため、子どもたちへ挨拶や注意をすることが難しいという話も出た。
・地域活動を通して関係性をつくることが大切だという意見もあり、アパートなどはつながりをつくることが難しいが、まずは参加して、地域に関わることが大事だという思いを共有した。

Cグループ

・新しく地域に来た人とのコミュニケーションについて、接点を持つのが難しいという意見があった。特にアパートに関しては、地域側も接点を持つことに消極的になっていたり、来た人も地域に関わりたい人・関わりたくない人どちらもいるので判断が難しく、課題を感じているという話があった。
・外国人について、言葉の違いによるコミュニケーションの難しさを感じるという意見が多くあった。会社などを仲介しながら交流を図り、地域活動に参加してもらうことでお互いを理解してトラブルを防げるのではないかという話もあった。
・ごみ集積所やごみ出しのルールについて、日本人外国人関係なく問題になっているという話があり、アプリの多言語化やルールの周知、相談先が明確になれば良いという意見があった。

Dグループ

・やってみたい活動などについて、新しく始めるよりもできることを絞ってやっていかなければならない、子どもたちの笑顔が少しでも増えるような活動を手伝いたい、子どもたちを軸に活動を盛り上げていかないと横のつながりが生まれない、子どもから大人まで楽しめるようなスポーツ大会を企画している、子ども会の活動が地域のつながりを取り戻すきっかけになるのではないかと感じる、等の意見が出された。
・子どもが少ない地区もあるため、自治協議会だからこそできる、地区の垣根を超えて東地区全体の子どもたちで行う活動があれば良いという意見が出された。
・子供が成長するにつれて、地域との交流が無くなっていくように感じるので、子どもの頃から地域と関わってもらえるようにして、大人になっても顔の見える関係をつくっていくことが大事ではないかという意見があった。

E-1 グループ

・地区の火防際について、行政区関係なく子どもたちに参加してほしいという意見があった。子どもが少なく、祭りを行っていない地区からは、可能ならば自分の地区の子どもたちを混ぜてほしいという話もあり、こういった一緒にやりましょうと言える空気がつくれたら良いという話もあった。
・新しい人が多い地区では、郷土芸能や伝統そのものが根付いていないという意見があった。小鳥崎さんさの活動を行っている地区からは、無形文化財としての芸能を守ることと、伝承するために形を変えていくべきことがあり、保存会でも課題となっているという話があった。
・継承していくための取組として、新しく地域に来た人たちを集めて「自治会説明会」を開き、活動内容や民俗芸能の紹介も行っているという事例が共有された。

E-2 グループ

・各地区の郷土芸能や祭りについて、子どもが大きくなっても関わり続けてもらえる仕組みが必要、子どもが参加しやすい工夫や保護者への働きかけ、人を呼び込む工夫や、一部のコミュニティに偏らない方法について等の意見がでた。
・民俗芸能の考え方について、伝承活動という側面だけであれば、地域外から受け入れて活性化していけるが、地域コミュニティの柱の一つとなっているため考え方が難しく、地域外から受け入れつつも地域の愛着や誇りに寄り添う運営の仕方を探っていきたいという意見があった。
・市出席者からは他地域の事例が紹介され、子どもと一緒に親が関わることで続いていくことや、学校で民俗芸能に取組むことで、人が少なくなり活動が困難になっていた民俗芸能に子どもたちが興味を持ち、つながりや継承が広がるという話があった。

グループトークの様子

黒沢尻東地区の皆さま

たくさんのご参加ありがとうございました